

佳作

少しの疲れと大きな達成感

山口県周南市立桜田中学校一年 富田 就斗

八月九日に、父にさそわれてボランティアに参加しました。それは、七月二十一日から発生した防府・山口豪雨災害復興ボランティアでした。

父は、今回のボランティアに何度も参加していて、父に土砂の被害がひどいという話は聞いていたものの、ぼくはボランティアの経験をしたことがなく、少しやれば終わるだろうと考えていました。

でも、実際に現地に行くと、土砂が家中に入っていて、それも僕のへそぐらいまで堆積していました。

父と父の職場の人たちと、ボランティアに集まった約五十人の人たちといっしょに、シヨベルでほって、てみや一輪車で何百往復もして外に出しました。

九時三十分の始まりの時はあれだけあったのに、終わりの三時三十分のころには、きれいにさっぱりなくなっていました。

家の人から、「暑い中、本当にありがとうございます。」

とあいさつされて、僕は初めての経験でつかれましたが、そのあいさつを聞いて、ボランティアに参加してよかったなと思いました。

また、ボランティアのリーダーからは、「最初は小さな不安と大きなエネルギーでしたが、最後は少しのつかれと大きな達成感になったと思います。」

と言われました。確かに、最初はあれだけあった土砂がきれいさっぱりなくなりまし

た。この土砂のおかげですと困っていた家の人たちからは、ていねいなお礼のあいさつをされ、少しつかれたけれども、本当に達成感のある一日でした。

学校では経験したことのない、貴重な体験ができたと思います。

僕は、この貴重な体験を通して、人と人とが協力し合う大切さや、自然の恐ろしさなど、様々なことを学ぶことができました。

もし、僕の家が土砂くずれに巻きこまれてしまつて困っている時に、ボランティアの人たちのおかげで土砂がのけられたとしたら、僕は言葉では言い表せないぐらい、感謝の気持ちでいっぱいになると思います。だからこれからは、災害によって困っている人たちの力に少しでもなれるように、できる限りボランティアに参加したいです。

これからの人生が、リーダーの言うように「少しの疲れと大きな達成感」となるように、すべてのことに全力をつかってがんばりたいです。